

## 保育現場の経験を保育士養成に生かす乳児保育の実践

幼年教育専修・深田昭三

### 1. 授業の概観

本授業は、1回生対象の保育士コースの必修授業である。平成21年度より開設された授業であり、本年は開設後2年目に当たる。受講生は保育士コースの学生10名（幼年教育専修7名，教育学専修1名，音楽専修1名，技術専修1名）に加えて、保育所等への就職を控えた幼年教育専修の4回生3名も受講した。

本授業では、えひめ乳児保育園の副園長である上岡米子先生を実地指導講師として迎え、授業を行っている。表1の授業スケジュールに示したように、第4回目から第11回目の計8回、上岡先生をお招きした。上岡先生には、授業内容に関する講義に加えて、上岡先生のご経験を踏まえたお話、授業内容に関連して乳児保育園の保育の様子を写した多数のビデオ、おもちゃや指導計画などの現物資料、哺乳・おむつ交換・沐浴などの赤ちゃん人形を用いた実習など、保育の実際に触れる授業をしていただいた。この実習に関しては、保育士コース室を活用して授業を行っていただいた。

第1回から第3回、第12回から第15回は、授業担当者である深田が単独で授業を行った。主として乳児保育の歴史とその意義、乳児期の発達などの理論的な側面からの授業を行った。

### 2. 授業の目的

本授業の目的は、「乳児保育の変遷と現状、保育所・乳児院の役割、乳児保育における基礎的な知識・技術を理解する。また、乳児期の保育を具体例を交えて学び、保育現場での課題解決の方法を理解する。」とした。

### 3. 授業の到達目標

本授業の到達目標として、次の3点を挙げた。

1. わが国における乳児保育の変遷と保育所・乳児院・家庭の現状を確認しながら、保育所や乳児院の果た

す役割、乳児保育を担当する保育者としての役割を自覚する。

2. 保育所や乳児院で乳児保育を担当する保育士として必要な乳児保育の理論や知識・技術の基本を具体的な事例を通して理解する。
3. 広く乳児期（3歳未満児）の発達と保育について学びながら、そこにおける大人の役割について、事例をもとに具体的に理解する。
4. 乳児を集団で保育することについて、保育現場での具体的な課題を、討議しながら考え問題解決の方法を理解する。

### 4. 授業評価法

授業終了後に、質問紙形式で、授業に対する評価を求め、受講生13名全員から回答を得た。授業への評価については、「そう思う(4)、どちらかと言えばそう思う(3)、どちらかと言えばそう思わない(2)、そう思わない(1)」の4段階尺度で回答を求めた。また、教育学部DPに関連して受講前と比較して向上したかどうかについても、「向上した(4)、どちらかと言えば向上した(3)、どちらかと言えば向上していない(2)、向上していない(1)」の4段階尺度で回答を求めた。

表1. 本授業のスケジュール

第1回目	10月1日	乳児・乳児保育の概念
第2回目	10月8日	保育ニーズと乳児保育の考え方の基本
第3回目	10月15日	保育者との信頼関係
第4回目	10月29日	乳児保育の発展の経緯と現状
第5回目	11月5日	乳児の機能発達と遊び
第6回目	11月19日	象徴機能の発達と遊び
第7回目	11月26日	乳児のほ乳と摂食
第8回目	12月3日	睡眠と生活リズム
第9回目	12月10日	排泄習慣の自立
第10回目	12月17日	乳児の事故と安全の確保
第11回目	12月22日	乳児保育の計画（保育計画、指導計画）
第12回目	1月21日	乳児の発達と保育1（0歳児）
第13回目	1月28日	乳児の発達と保育2（1歳児）
第14回目	2月4日	乳児の発達と保育3（2歳児）
第15回目	2月18日	授業のまとめと試験

注）網掛けをした第4回目から第11回目までは、実地指導講師の上岡氏に担当していただいた。

表 2. 授業評価アンケートの結果 1 (一般項目)

項 目	平均	はい<----->いいえ			
1. あなたはこの授業に意欲的に取り組みましたか。	3.9	92%	8%	0%	0%
2. この授業で科せられた課題の量は適切でしたか。	3.7	69%	31%	0%	0%
3. 授業のテーマ・目的は授業展開の中で明確でしたか。	3.8	85%	15%	0%	0%
4. 担当教員の話し方や説明の仕方はわかりやすかったですか。	3.8	85%	15%	0%	0%
5. 授業の中で質問や意見発表の機会は与えられましたか。	3.2	46%	31%	23%	0%
6. 授業に対する担当教員の熱意・工夫は感じられましたか。	3.8	77%	23%	0%	0%
7. この授業の内容・レベルはあなたにとって適切でしたか。	3.8	85%	15%	0%	0%
8. この授業により、自分の考え方がつちかわれたり、得るところがあったりしましたか。	3.8	85%	15%	0%	0%
9. 私語や遅刻などへの適切な処置により、授業に集中する雰囲気は保たれていましたか。	3.8	85%	15%	0%	0%
10. この授業は保育職に就くことに有益だったと思いますか。	3.9	92%	8%	0%	0%
11. あなたはこの授業で乳児への理解が進みましたか。	3.8	77%	23%	0%	0%
平 均	3.8	80%	18%	2%	0%

注) 平均は、質問項目への 1~4 の反応の平均値を示す。「はい」~「いいえ」への回答の最頻値にあたる個所を網掛けにした。表 3 についても同じ。

### 5. 授業評価結果

表 2 に示したように、授業の評価結果は非常に良い結果となった。全般を通して評定平均は 4 点の上限に対し 3.8 点であり、個々の回答についても 80% の学生が「そう思う」と答え、「どちらかと言えばそう思う」を加えると 98% の肯定的な回答であった。ただし、「授業の中で質問や意見発表の機会は与えられましたか」に対しては肯定的な回答が低い傾向にあった。これは深田担当部分で、本授業の到達目標で挙げた「保育現場での具体的な課題を、討議しながら考える」ことが十分実現できなかったことによるものと思われる。この点については来年度以降の改善が求められる。

一方、DP 関連項目の 5 項目についての結果(表 3)も非常に良好な回答を得た。「保育内容・保育職に関する確かな知識と、得意とする分野の専門的知識」の修得についての問いについては、平均

値が 3.7 であり、69% の学生が「向上した」と答え、「どちらかと言えば向上した」を加えると、全員が肯定的な回答を行った。その他の 4 項目においても向上したとする回答が多く、全体を通して「向上した」と「どちらかと言えば向上した」の合計は 95% ととなり、学生は、ほぼ DP の全項目に関して何らかの向上が得られたと評定していた。

### 6. まとめ

乳児保育について優れた保育を展開しておられるえひめ乳児保育園の上岡先生に、きわめてご多忙な中時間を割いていただき、しかも現場の雰囲気伝えるとても丁寧な授業準備をしていただいたことが、今回の高評価をもたらした主な原因であろう。ビデオ撮影にご協力をしていただいた先生方も含め、えひめ乳児保育園には改めて感謝の意を表したい。

表 3. 授業評価アンケートの結果 2 (DP 関連項目)

項 目	平均	向上した <-----> 向上しなかった			
1. 保育内容・保育職に関する確かな知識と、得意とする分野の専門的知識を修得している。	3.7	69%	31%	0%	0%
2. 保育の現場で生じているさまざまな教育課題について論じ、適切な対応を考えることができる。	3.3	31%	69%	0%	0%
3. 乳児の発達に応じた保育の構成や教材・遊具の工夫ができ、個に応じた指導や説明ができる。	3.2	31%	62%	0%	8%
4. 実践を省察し、自己の学習課題を明確にし、理論と実践を結びつけた学習ができる。	3.2	31%	62%	8%	0%
5. 保育職に対する使命感や責任感を身につけ、教育的愛情を持って子どもに接することができるとともに、多世代にわたる対人関係力を身につけ、社会の一員として適切な行動ができる。	3.3	38%	54%	8%	0%
平 均	3.3	40%	55%	3%	2%